

学校教育目標		平成28年度 西東京市立ひばりが丘中学校 学校自己評価表				5段階評価		5: 特によい 4: 良い 3: おおむね良い 2: 改善の余地あり 1: 大いに改善あり	
学校教育目標		広く国際社会を創造性豊かに、たくましく生きる人をめざして ・自ら学ぶ ・豊かな心 ・夢の実現				5段階評価		5: 特によい 4: 良い 3: おおむね良い 2: 改善の余地あり 1: 大いに改善あり	
目指す学校像 【目指す学校像】 【目指す生徒像】 【目指す教師像】		●生徒一人一人が主役となる学校 ●生徒、保護者、地域から信頼され愛される「明日が待たれる学校」 ●自己実現に向け、自ら考え進んでやりぬく心と体をもつ生徒 ●自他を尊重し、正しい判断に基づき、責任を重んじ協力する生徒 ●伝統と文化を尊重し、自然と郷土を愛し、広く社会に貢献しようとする生徒 ●「文武両道」に励む活力ある生徒 ●分かりやすい授業ができ、生徒の学ぶ意欲を引き出す教師 ●生徒の心に耳を傾け、共感的に理解し励まし支援する教師 ●時に優しく、時に厳しく、毅然とした指導を遂行する教師 ●生徒の力を引き出し、生徒の自己実現を支援する教師							
本校の実態と課題		○ 言語能力向上推進校等の研究指定を受け、アクティブ・ラーニング等、豊かな言語活動を取り入れた授業に意欲的・対話的に学ぶ生徒が多い。今後は、授業で習得した知識・技能を活用できる生徒の育成を図っていく必要がある。 ○ 学校生活では、あいさつ運動などの実施により、生徒の自主性を重んじた委員会活動を実施できた。今後は、自分から挨拶のできるより積極的な生徒の育成を図っていく必要がある。 ○ 学校行事や学年行事等に熱心に取り組む生徒が多い。今後は、それらの活動で学んだ力を自信をもって普段の学校生活に結びつけられる主体的な生徒の育成が必要である。 ○ 歴史と伝統のある地域に根ざした中学校であり、保護者、地域からの信頼が厚い。今後は、互恵関係の一層の充実を図ることで、ゆるぎない学校・保護者・地域との信頼関係を継続していく必要がある。							
中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	取組指標		成果指標		取り組みと分析	改善策	
			中間	年間	中間	年間			
確かな学力の向上	生涯に渡り、人生を豊かに切り開いていくことのできる「確かな学力」を育む	授業改善推進プラン、都や国の学習調査結果を生かし、授業改善、授業研究を重ねることで、基礎・基本の定着を目指した、授業に集中できる魅力ある授業を実践する	3	4	3	4	アクティブ・ラーニングとともに、各教科の基礎的・基本的な学習内容の定着を図るため、授業開始時に、既習内容のミニプリントを実施したり、授業に集中し、すべての生徒が理解できるよう、「分かる授業」づくりや「知的好奇心がわく授業」づくりを推進している。	「本校の授業は、生徒が主体的・能動的に学べる授業づくりを行っているか」という問いに対し、前期に比べ、後期では保護者・生徒共に評価が10%伸びている。また、否定的な評価は10%を切った。授業のルールを定着させ、生徒自らが学力が身に付いたと実感できる授業づくりを目指す。	
		基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る	学習遅延生徒に対する個別支援学習や長期休業中の補習を実施する	3	4	3	4	保護者の66%、生徒の79%が個別支援学習や補習の取組に評価をしている。夏季休業中や定期考査前の補習等の実施により、つまずいた問題の理解を深めることができたと考えられる。	保護者の22%が補習等の取組に評価をしていない。また、保護者の12%が分からないと回答している。学校の取組について、各種便りだけでなく、保護者会等などでより一層広められるよう取り組む。また、補習等の方法についても常に見直しをしていきたい。
		学校図書館の活用と朝読書やブックカフェの実施により、全生徒が活字に親しめる取組を推進する	4	4	4	4	全学年、全学級で取組む朝読書の時間では、教室に誰もいないと感じるくらい静かな環境で取り組んでいる。また、今年度初めて実施した放課後のブックカフェでは全校で40名の有志生徒が集まるなど、言語能力向上推進校としての取組が定着してきている印象を受ける。	来年度はアクティブ・ラーニング指定校として引き続き、全校上げて研究を推進していくが、朝読書やブックカフェ等による豊かな言語活動を充実させることで、思考力・判断力・表現力の向上と豊かな心を育む指導にもつなげる指導も心がける。	
	思考力・判断力・表現力等の向上と課題解決できる能力の育成を図る	都の言語能力向上推進校として、研究主題「主体的に考え行動する力の育成～豊かな言語活動を通して～」に基づき、授業研究、授業実践を実施する	4	4	3	4	全教員がアクティブ・ラーニングを取り入れた授業スタイルを実践してきた。生徒の授業アンケートでは、協働的な活動の前には課題に対し、じっくり自分で考える時間の確保がアクティブ・ラーニングを充実させる秘訣であることがわかった。	生徒が課題を自分の問題としてとらえられるよう、一人で考える時間の確保が必要である。また、「話し合いや友達の見聞を聞く協働的な活動」で終わらずに、課題の理解を深めるためには、最後にもう一度「一人でまとめる時間」が大切である。今後は効果的なアクティブ・ラーニングの授業づくりを共通認識	
	プロ選手による講演、落語家による講演、都立図書館の専門家による読み聞かせ等、外部人材を活用した豊かな言語環境を体感できる授業づくりを推進する	4	4	4	5	言語推進校としての教員の研修と研究発表会において、東京大学の酒井教授による脳科学と言語についての講演会を実施したり、生徒を対象とした桂伸治師匠による落語講演会、都立図書館司書の方による読み聞かせを実施した。各専門家による講演を通して、教員は授業力の向上、生徒は言語力の向上につながった。	次年度は、アクティブ・ラーニング研究指定校及びスーパーアクティブスクールとして、外部人材を活用した講演会や授業等を検討している。各種専門家ならではの講演を通して、今後とも生徒の創造性や思考力を向上させていきたい。		
豊かな心の育成	全教育活動を通して、「心の教育」を推進し、人権教育・道徳教育を充実させ、互いの生命と人格を尊重する「豊かな人間性」を育む	道徳の時間を要として、全教育活動を通して、自他の立場を尊重でき、自己肯定感を高める生徒の育成を図る	4	4	3	4	本校の特色ある教育活動のひとつ「人権カレンダー」作成及び各教室での掲示により、生徒の人権感覚や人権意識が向上させていると思うという回答が前期に比べ後期では保護者・生徒ともに2%程度増加している。	人権感覚や人権意識は1回生に付いたら終了するものではない。全校朝礼の人権講話、人権週間、ひばり月間など定期的に人権について考える時間を確保していく。また、SNSに関する情報モラル教育を定期的に実施し、自分の問題としてとらえられる生徒の育成を推進する。	
		道徳授業地区公開講座や道徳の時間では、内容項目に沿った生徒の心に残る教材を通して、人格形成を図る	4	4	3	4	今年度の道徳授業地区公開講座の一環として、元バレーボールオリンピック選手の大林素子氏を招聘し、「自他の違いを認め、互いを尊重し合う態度を育てる」をテーマに講演をしていただいた。保護者の参観は平日にも関わらず多くの参観があり、本校の取組に理解を示していただいた。	著名人の生き方や考え方の講演を直接聞くことを通じて、生徒のものの見方や考え方に化学変化を与え、自己肯定感を高める効果がある。今後も著名人の講師を招聘し、講演を通して、生徒・保護者あるいは地域の方々に開かれた学校づくりを推進したい。	
		毅然とした温かい生活指導と社会の一員としての「正しい規範意識」を育成する	4	4	3	3	自分たちで気づかせる生活指導を心がけている。いじめ防止のための取組のひとつである「ひばり月間」では、自分たちで生活目標を選択し、目標達成にむけ取り組んでいる。また、生徒間トラブルについては、双方の立場や思いをカウンセリングマインドの精神で指導し、正しい規範意識を育成している。	今後も生徒の実態に応じた生活指導を心がけ、生徒自身が気づく言葉かけや生活指導を心がけていく。情報モラルに関する生徒間トラブル回避のために、直接言えないことはSNS上には記載しないといった具体的な指導を徹底させていく。	
夢の実現	自分の将来の希望をもち、その実現に向けた努力を惜しまない生徒を育成する	伝統と文化を尊重し、自然と郷土を愛し、社会に貢献する心を育成する	3	4	2	4	「ボランティア活動に積極的に参加しているか」という問いに、そう思う保護者が40%、そう思わない保護者が55%、そう思う生徒は84%、そう思わない生徒は11%だった。昨年度の集計より保護者、生徒ともそう思う割合が多くなっている。これはトライ&チャレンジをボランティアのススメと位置づけ、全校生徒対象としたものによると思う。	保護者の肯定的な回答の割合が生徒よりも40%以上も隔たりがあり、保護者と生徒の捉え方に温度差がある。今後もトライ&チャレンジや谷戸ふるさと祭り、デイサービス訪問等の活躍を広く周知し、生徒の活躍を保護者の皆様に理解していただくようにしたい。	
		働く意義・目的を学び、キャリア教育を通して、望ましい進路選択ができる生徒を育成する	おやじ倶楽部の職業講話、職場体験、進路学習等を通して、自分を見つめ、自分を知ること、具体的な目標を設定できる生徒を育成する	4	4	4	5	おやじ倶楽部の方々による職業講話や進路学習など「夢の実現」に向けた学校の取組は高く評価された。後期の学校評価では、そう思わない回答が0%になった。おやじ倶楽部の方々の職業講話当日に至るまでの入念な打合せや段取りにより、講師の方の思いや熱意が生徒に伝わった。職業講話から多面的に職業について理解が深まった。	おやじ倶楽部からは毎年学級に1人講師を派遣していただいている。毎年、計画的に講師の方を決定していただいている。おやじ倶楽部の方々には、本校の特色ある職業講話が継続するよう、双方互恵関係を構築していく次第である。
		学校生活の中で、自分の長所を伸ばし、集団の中で自己の役割を果たす生徒の育成	学校行事、学年行事、委員会活動、係活動等への自発的参加により、ひばりが丘中学校の生徒の一員である自覚をもち、生きがいをもてる生徒を育成する	4	4	4	5	運動会や合唱祭、今年度から始まったひばり文化の日といった学校行事、校外学習、球技大会といった学年行事など、生徒による実行委員会の組織が先頭に立ち、行事を盛り上げるなど、生徒の自主性、生徒の自治組織を大切にした指導が評価されている。	生徒会が企画した笑顔の花を満開にしよう運動(学級全員で朝のあいさつ運動)やノーチャイムデーの実施など生徒の発想を実現させるため今後とも惜しまない指導・助言を与えていきたい。